令和5年度　岡山県立笠岡高等学校　学校経営の具体的計画　　最終評価

本年度の重点目標	分掌	本年度の重点目標を達成するための課・学年での重点目標 （めざす具体的な姿）	本年度の重点目標を達成するための課・学年内での具体的方策 （教育活動）	評価基準	中間期の達成状況・課題 （結果と成果）	総合評価 （中間評価）	年度末の達成状況 （結果と成果）	評価基準に対する評価	総合評価 （最終評価）	本年度の課題と次年度の方策
1　可能性を引き出す個別最適な学びの促進	教務課	「千鳥型学習指導のスタンダード」に基づく授業の実践、生徒をアクティブラーナーに導く授業づくり推進する。	校内互見授業と公開授業において、新学習指導要領や観点別評価についての研究と授業実践の成果と課題を教員間で共有できるよう、授業改善につながる枠組みを整える。	学校自己評価アンケートで評価。 (生徒)「笠岡高校で行われている授業は、魅力的で、意欲的に取り組みたくなる授業ですか。」 ①はい・そう思う　②だいたいそう思う ③あまりそう思わない　④いいえ・そう思わない ①＋②の割合(R4 71%、R3 72%、R2 78%) 4：80%以上、3：75%以上、2：70%以上、1：70%未満 (教員)「笠岡高校では、主体的・対話的で深い学びを実現する授業を実践できていると思いますか。」 ①はい・そう思う　②だいたいそう思う ③あまりそう思わない　④いいえ・そう思わない ①＋②の割合(R4 83%、R3 89%、R2 93%) 4：93%以上、3：90%以上、2：80%以上、1：80%未満 生徒と教員の指標で総合的に評価する。	・6月に互見授業週間（2週間）を設定し、教科の異なる教員でグループをつくり、互いの授業を見学した。参観シートを利用し、個人として得られた知見を集約し、全体で共有するという職員研修も実施した。 ・後期は主に教科単位での公開授業や「探究的な学び」に関する研修も予定している。	B	・6月後半に校内互見授業を、11月7日～10日に授業公開、また9～12月に教科ごとの研究授業を実施した。教科指導について様々な知見の共有が図れた。 ・生徒による授業評価アンケートの結果を教科内で分析し、成果と課題を教員全体で共有した。 ・探究先進コース単独授業についての情報交換会を職員全体で行った。 ・学校自己評価アンケートの該当項目の肯定的回答（①＋②）の割合は、生徒71%、教員81%であった。	2	B	・次年度は新学習指導要領での学習が始まって3年目の完成年度となる。主体的・対話的で深い学びがさらに深化するよう、指導と評価の一体化に関する研究、探究的な学びに関する研究が必要である。そのために、合わせて1人1台端末iPadの有効活用に関する研究も求められる。
	教務課	少人数・習熟度別授業と3つの学びのコースにより生徒の個別最適な学びをサポートする。	少人数・習熟度別授業や3年次は3つの学びのコースごとの授業の充実、来年度に向けた3つの学びのコースの体制等の検討を行う。	学校自己評価アンケートで評価。 (生徒)「選択希望や進路志望、習熟度等で講座を分けた授業は、あなたの知識の深まりや成績向上につながっていると思いますか。」 ①はい・そう思う　②だいたいそう思う ③あまりそう思わない　④いいえ・そう思わない ①＋②の割合(R4 89%、R3 90%、R2 91%) 4：90%以上、3：85%以上、2：80%以上、1：80%未満	・1・2年次の授業において、個別最適な学びを実現するため、少人数・習熟度別授業を国数英で実施し、コース編成を適切に行っている。 ・3年次の授業において、探究先進コースでは国数英と、理系の化学、地理で単独の授業を行っている。また、総合コースでは、主に数英で習熟度別の授業を行っている。 ・来年度の3つの学びのコースの体制についての検討を重ね、3年次のクラス数を決定した。	B	・1・2・3年次の習熟度別授業、3年次の3つの学びのコース別の授業ともに授業研究のもと円滑に実施できた。 ・初めて、3年次を3つの学びのコース別のクラスとしたために時間割編成に制約が増えたが、初期の時間割作成に加えて日々の時間割変更にも適切に対応できた。 ・学校自己評価アンケート（生徒）の該当項目の肯定的回答（①＋②）の割合は92%であった。	4	A	・来年度の3年次は、今年度の5クラス体制から4クラス体制に変更する。文理混合のクラスが2クラスできるのは初めてで、これに関わる運用上の諸問題が発生することが予想される。時間割編成をはじめ、慎重にシミュレーションしながら対応していく。 ・3つの学びのコース導入1期生の成果と課題を分析し、コース制の充実、改善を図る。
	教務課	生徒が情報機器を活用することで、自らの興味関心や学習内容を深めたり広げたりできるよう支援する。	教科等と連携してICTを利活用できる環境を整え、主体的・創造的な学びを支援する。	学校自己評価アンケートで評価。 （生徒）「笠岡高校のICTを利活用した学習は、あなたの興味関心を深める、または、学習内容の理解を助けるものとなっていると思いますか。」 ①はい・そう思う　　②だいたいそう思う ③あまりそう思わない　④いいえ・そう思わない ①＋②の割合（R4 77%, R3 80%） 4：85%以上　3：80%以上　2：70%以上　1：70%未満	・コロナ5類移行後、出席停止等で登校できない生徒に対する授業動画配信のガイドラインを策定し、該当生徒に配信している。 ・ICTを利活用した授業づくりについて意識高揚のための研修会を行った。	B	・出席停止等で登校できない生徒のうち、希望者に対して、年間を通じて授業動画配信を行った。 ・1人1台端末が全校でそろい、Googleアカウント、365アカウント、AppleIDを全員に割り当て、授業等で活用できる環境を整えた。 ・教育情報化推進室が実施した学びの変容状況アンケート（第1回）において、授業・家庭での端末活用状況は1・2年生とも県下最上位クラスであった。 ・端末やクラウドサービス等の故障やトラブルに、早急に対応できた。 ・学校自己評価アンケート（生徒）の該当項目の肯定的回答（①＋②）の割合は88%であった。	4	A	・Google、Apple、Microsoft等のサービスを併用しているため、生徒への連絡や課題の指示系統が多様で複雑である。生徒にとってわかりやすい形への改善を検討していく。 ・本校の、School-StudentとChidori-netの2つの学習系ネットワークの運用や教室PCやマルチメディア教室PCの運用を考える必要がある。

令和5年度　岡山県立笠岡高等学校　学校経営の具体的計画　　最終評価

本年度の重点目標	分掌	本年度の重点目標を達成するための課・学年での重点目標 （めざす具体的な姿）	本年度の重点目標を達成するための課・学年内での具体的方策 （教育活動）	評価基準	中間期の達成状況・課題 （結果と成果）	総合評価 （中間評価）	年度末の達成状況 （結果と成果）	評価基準に対する評価	総合評価 （最終評価）	本年度の課題と次年度の方策
2　夢と志を育むキャリア教育の深化	進路課	ACTを中心としたカリキュラムマネジメントを推進し、未来開拓力を育む。	未来開拓力を育むため、適切かつ計画的に進路情報を提供し、難関大訪問や難関大合宿、リーダー育成合宿などの行事を実施する。	学校自己評価アンケートで評価。 (生徒)「笠岡高校は、進路資料や各種ガイダンスなどを通してあなたに必要な進路情報を提供していますか。」 ①はい・そう思う　　②だいたいそう思う ③あまりそう思わない　④いいえ・そう思わない ①＋②の割合（R4 89%、R3 87%、R2 90%） 4：90%以上、3：85%以上、2：80%以上、1：80%未満	・進路資料や各種ガイダンス、LHR、面談週間など進路に関する情報提供を効果的に行うことができた。 ・難関大学訪問は大学の受け入れが難しく実施ができなかった。今後、実施形態等について検討する必要がある。 ・難関大学合同学習合宿については11月中旬の実施で計画している。また、「高い志」醸成プロジェクト合同学習会・東京大学訪問についても参加計画中である。	B	・ACTの取り組みをとおして生徒は協働力や表現力などの未来開拓力を伸ばすことができた。またこうした取り組みは地域や大学から高い評価を得ている。 ・3年ぶりに実施した難関大学合同学習合宿や「高い志」醸成プロジェクトを通じて生徒の意識が向上した。 ・学校自己評価アンケート（生徒）の該当項目の肯定的回答（①＋②）の割合は92%であった。	4	A	今後も高大連携や企業連携の窓口として、進路課だけでなく、教科や部活動等とも連携した取り組みを継続する。
	進路課	キャリアカウンセリングを充実させ、個性と可能性を伸ばす進路指導を推進する。	生徒一人一人に応じたキャリアカウンセリングが効果的に行えるようにカウンセリングシステムを工夫・改善する。	学校自己評価アンケートで評価 (生徒)「笠岡高校は、面談などを利用して一人ひとりの生徒に応じた進路指導を行っていますか。」 ①はい・そう思う　　②だいたいそう思う ③あまりそう思わない　④いいえ・そう思わない ①＋②の割合（R4 89%、R3 91%、R2 92%） 4：90%以上、3：85%以上、2：80%以上、1：80%未満 (保護者)「笠岡高校は、面談などを利用して一人ひとりの生徒に応じた進路指導を行っていると思いますか。」 ①はい・そう思う　　②だいたいそう思う ③あまりそう思わない　④いいえ・そう思わない ①＋②の割合（R4 88%、R3 89%、R2 84%） 4：90%以上、3：85%以上、2：80%以上、1：80%未満 生徒と保護者の指標で総合的に評価する。	・昨年度の課題であった夏期補習中の業務集中による教員負担については、夢ナビライブを自由参加にすることや、ACTの校外での行事の計画を見直し、教員が生徒と関わる時間を確保できるよう改善した。 ・昨年度までオンライン実施であったり中止していたりしたプログラムが対面形式で実施でき、効果的に行えた。	B	・生徒・教員共にiPadを活用しながら、効率的な進路指導ができた。 ・各学年で、生徒一人一人に応じた教科カウンセリングを各種考査や模試を活用して継続的に行なうことができた。 ・面談週間での面談はもちろん、日頃から必要に応じた個人面談を丁寧に行うことができた。 ・学校自己評価アンケート（生徒・保護者）の該当項目の肯定的回答（①＋②）の割合は、生徒94%、保護者84%であった。	3	A	各学年の面談週間の設定を期別の行事予定ではなく年間行事予定に入れておく必要があった。
	進路課	課題発見力・課題解決力を育む探究活動の充実を図る。	ACTプログラムでの学びと教科や特別活動での学びとの往還を意識した教育活動が展開できるよう、校内外での生徒の学びの機会の充実を図る。	学校自己評価アンケートで評価。 (生徒)「笠岡高校は、「総合的な探究の時間(ACT)」などを利用して、将来の進路や生き方について、考えを深め、主体的に進路選択ができるように、計画的に指導ができていると思いますか。」 ①はい・そう思う　　②だいたいそう思う ③あまりそう思わない　④いいえ・そう思わない ①＋②の割合（R4 79%、R3 79%、R2 83%） 4：85%以上、3：80%以上、2：70%以上、1：70%未満	・外部資源を効果的に活用したり、ACTプログラムをその都度適切にマイナーチェンジしたりと、進路課内でよく連携をして取り組めた。 ・2年生のテーマ探究では、大学の教授から班ごとにきめ細かいアドバイスがもらえ、個人・グループにおける探究活動の深化を図ることができた。 ・各プログラムの繋がりや意義などがまだ生徒に十分に伝わっていない実態もあるため、生徒が自身の興味・関心を掘り下げられるような活動になるよう教員側の理念共有などを図っていく。	B	・校内外の学びの機会は年間を通じて積極的に提供できている。 ・探究活動の成果を発表する「探究フォーラム」などに積極的に参加し、良い刺激を得た。 ・学校自己評価アンケート（生徒）の該当項目の肯定的回答（①＋②）の割合は生徒82%であり、昨年度より3ポイント向上した。	3	B	・教員の負担感の軽減に向けてACTプログラムの改善等を検討する。 ・地域学では、実施後の教員アンケートにも「時間をかけてじっくりと取り組ませたい」という意見があった。時間をこれ以上増やすのは教科など他の時間とのバランス上困難なため、生徒の活動に直接関わるワークシートの見直しを行い、取り組む活動の焦点化や見通しを持てるように工夫をする。 ・テーマ探究では、特に「課題設定」のプロセスについての理解を教員、生徒とも深められるようプログラムや使用教材をマイナーチェンジし、探究的な学習の意義を踏まえ、活動が充実できるよう努める。

令和5年度　岡山県立笠岡高等学校　学校経営の具体的計画　　最終評価

本年度の重点目標	分掌	本年度の重点目標を達成するための課・学年での重点目標 （めざす具体的な姿）	本年度の重点目標を達成するための課・学年内での具体的方策 （教育活動）	評価基準	中間期の達成状況・課題 （結果と成果）	総合評価 （中間評価）	年度末の達成状況 （結果と成果）	評価基準に対する評価	総合評価 （最終評価）	本年度の課題と次年度の方策
3　主体性と豊かなつながりを生み出す活動の充実	総務課	生徒が主体的に広報活動に参画できる機会を設けるとともに、生徒目線の広報活動を推進する。	学校の魅力発信の機会を充実させ、広報活動において生徒が主体的に活躍できる場を設ける。	広報活動において生徒が参画した事業数で評価。 （R4 6件、R3 5件） 4：7件以上　3：6件　2：5件　1：4件以下	・第1回オープンスクールと千鳥ゼミでは生徒主体の準備や運営ができた。 ・中学校母校訪問では、中学生向けのプレゼンテーションを生徒がタブレット端末を活用して作成し、生徒目線で中学生に紹介することができた。 ・今後、生徒目線で魅力的な高校紹介動画を作成していく。	B	・広報活動において生徒が参画した事業数は、学校案内、中学校母校訪問、第1回オープンスクール、第2回オープンスクール、千鳥ゼミ、笠岡放送「そこが聞きたい」収録、学校説明会、中国新聞社企画学校自慢の8件で、多くの生徒が広報活動に関わることができた。 ・11月の学校説明会では、在校生による座談会において、生徒自身が作成した生徒目線の学校説明プレゼンテーションを用いて説明した。参加した中学生・保護者から好評であった。	4	B	・予定していた広報活動は順調に進めることができたが、最終調査の進学希望者数が募集定員に達しなかった。 ・中学生やその保護者、中学校教員のニーズを把握した、広報活動の見直しが必要である。 ・広報活動については次年度も本年度同様、生徒が主体的に参画できるよう活躍の場を確保し、生き生きとした生徒の姿をさまざまな形で発信したい。
	教務課	国際社会で活躍し、その発展に貢献する人材を育成するため、国際交流活動を推進する。	国内外での研修やオンラインでの交流活動を計画、実行する。	年度内における、国際交流事業の企画立案または実施件数で評価。 (R4 4件) 4：4件以上、3：3件、2：2件、1：1件以下	・フィリピンセブ島の短期語学研修に22名が参加した。 ・岡山県・韓国慶尚南道青少年交流事業に2名が参加した。 ・国際交流員等による「令和5年度国際理解講座」（11月）を計画中である。	B	・国際交流員による「令和5年度国際理解講座」（11月）を実施した。 ・イギリスで留学中の学生とオンライン交流(12月)を行った。 ・来年度、セブ島の高校とオンラインで交流できるよう計画を進めている。	4	A	本年度は、生徒に多くのイベントへの参加募集を行ったが、参加希望者が出ず、見送られたものもあった。急な募集もあり、生徒への事前の周知が不十分であった。生徒への告知を早めに行っていきたい。
	生徒課	ホームルーム活動や生徒会活動（各種委員会や学校行事等）への生徒の主体的な参加を促す。	各行事の実行委員を生徒会総務部中心に組織化するとともに、事前打ち合わせや役割分担が効果的に行われるよう指導する。また、できるだけ多くの委員会で、生徒の主体的な活動に取り組ませる。	学校自己評価アンケートで評価。 （生徒）「ホームルーム活動や生徒会活動（各種委員会や学校行事等）に、生徒が主体的に参加していると思いますか。」 ①はい・そう思う　②だいたいそう思う ③あまりそう思わない　④いいえ・そう思わない ①＋②の割合（R4 88%、R3 89%、R2 89%） 4：90%以上、3：85%以上、2：80%以上、1：80%未満	・球技大会や千鳥祭では、生徒が中心となり、役割分担等をスムーズに行うことで主体的かつ組織的に活動することができた。 ・前年度の取組を踏まえ、生徒会総務部を中心に主体的に工夫改善し、行事の活性化を実現できた。	A	・昨年度に続き、生徒会総務部を中心に主体的な取り組みができ、行事が計画的に行われ、活性化した。 ・前期に引き続き、生徒主体の取り組みができた。 ・学校生活の分析や校則の見直しの検討を行った。 ・学校自己評価アンケート（生徒）の該当項目の肯定的回答（①＋②）の割合は90%であり、昨年度より2ポイント向上した。	4	A	・アンケート結果は今年度上昇した。生徒会役員や総務部の主体的な取り組みが定着し、学校全体にその精神が浸透しつつある。今後は、更なる高水準での学校全体の主体性の育成に繋げていきたい。
	生徒課	生徒の主体的な部活動運営と積極的な参加を促す。	生徒によるミーティングの充実を図り、活動組織構築や活動計画の立案等、部活動運営全般に主体的に取り組めるよう支援する。	学校自己評価アンケートで評価。 （生徒）「笠岡高校では、多くの生徒が部活動に主体的に参加していると思いますか。」 ①はい・そう思う　②だいたいそう思う ③あまりそう思わない　④いいえ・そう思わない ①＋②の割合（R4 79%、R3 84%、R2 88%） 4：90%以上、3：85%以上、2：80%以上、1：80%未満	・各部とも、部長を中心とした生徒主体の活動を行うことができた。今後更なる活性化と自主活動としての教育的価値を見いだす取組の工夫を続けたい。	B	・生徒主体で放課後の部活動運営を行うことで、生徒自身は充実感と文武両道の達成感を感じ、楽しく過ごすことができた。 ・学校自己評価アンケート（生徒）の該当項目の肯定的回答（①＋②）の割合は84%であり、昨年度より5ポイント向上した。	2	B	・アンケート結果で生徒の評価と教員の評価に乖離がみられる。生徒の意識は、主体的な活動の中で学業とのバランスを自らとり、学業との両立を行えていると感じており、充実感を味わっていると考えられる。一方で、教員の意識としては活動が低迷していると感じる傾向にある。本校における部活動の位置づけを明確にし、その目的達成のために教員と生徒が一丸となって取り組む必要がある。
	生徒課	挨拶をはじめとしたコミュニケーションスキルを高め、好ましい人間関係を形成する能力の向上を図る。	生活委員会や生徒会総務部を支援し、生徒主体のあいさつ運動の実現を目指す。教員が率先して挨拶を日々励行するとともに、社会で生かせる基本的な力の向上を図る。	学校自己評価アンケートで評価。 （生徒）「笠岡高校の生徒は、学校内や地域で、積極的に挨拶ができていると思いますか。」 ①はい・そう思う　②だいたいそう思う ③あまりそう思わない　④いいえ・そう思わない ①＋②の割合（R4 64%, R3 64%, R2 68%） 4：80%以上、3：70%以上、2：60%以上、1：60%未満 （教員）「笠岡高校は、積極的に挨拶をするよう指導ができていると思いますか。」 ①はい・そう思う　②だいたいそう思う ③あまりそう思わない　④いいえ・そう思わない ①＋②の割合（R4 66%, R3 43%, R2 56%） 4：80%以上、3：70%以上、2：60%以上、1：60%未満 生徒と教員の指標で総合的に評価する。	・生活委員会が主体的にあいさつ運動を実施した。 ・職員室入室時の挨拶を含む礼法が改善され、定着しつつある。 ・教員が率先して挨拶を励行することで、日常的な挨拶についても改善され、活気が出てきている。	B	・生徒は日常において挨拶をする習慣が少しずつ身に付いてきている。 ・学校自己評価アンケート（生徒）の該当項目の肯定的回答（①＋②）の割合は68%であり、昨年度より4ポイント向上した。また、学校自己評価アンケート（教員）の該当項目の肯定的回答（①＋②）の割合は45%であり、昨年度から見ると21ポイントと大幅に低下し、教員と生徒間での乖離がみられた。	2	B	・次年度も生徒主体のあいさつ運動を継続する。 ・挨拶に関して、生徒の意識向上を図るとともに、教員の日常での意識を高めるよう努める。